

## 令和4年度現職教員研修推進本部シンポジウムアンケート結果

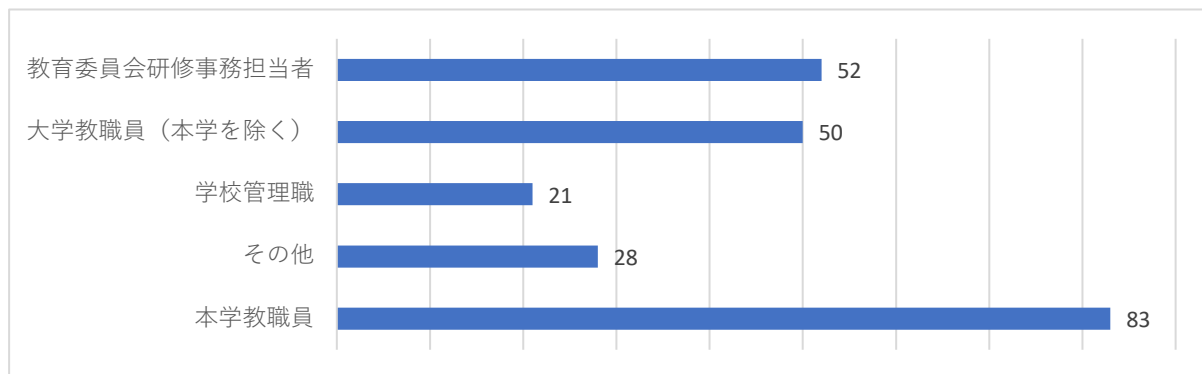
### 0.実施概要

テーマ：令和4年度東京学芸大学現職教員研修推進本部シンポジウム  
「新たな教師の学びの姿」実現にむけた教育委員会と大学の役割  
日時：令和4年9月27日（火）14時00分～17時00分  
場所：オンライン開催（Zoom）  
対象：教育委員会研修事務担当者、学校管理職、大学教職員

### 1.事前アンケート

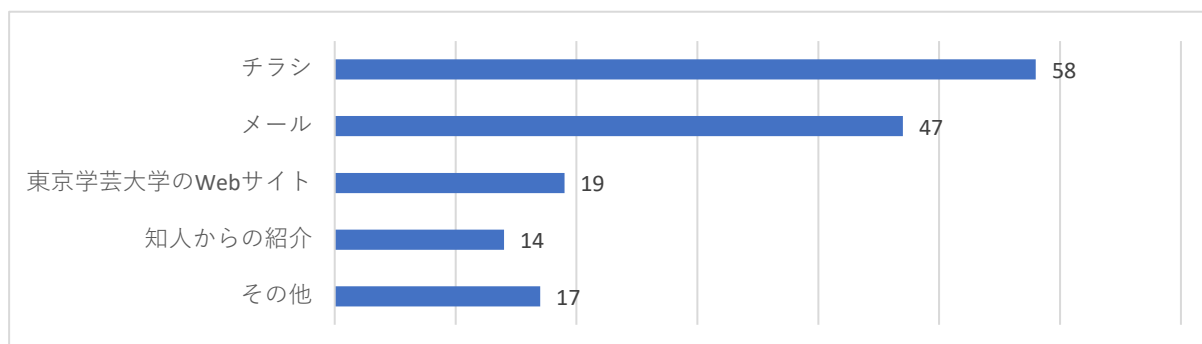
参加申込時に簡易なアンケートを行った。（回答任意）

#### 申込者内訳



- ・申込者は合計224名。職種は複数選択可のためグラフ上の数値の合計とは一致しない。
- ・本学教職員には招待者を含む。
- ・「その他」の内訳は、「教諭」「大学院生」他、教育関係企業等があった。

#### Q1. 本シンポジウムの開催をどこで知りましたか。（複数選択可）

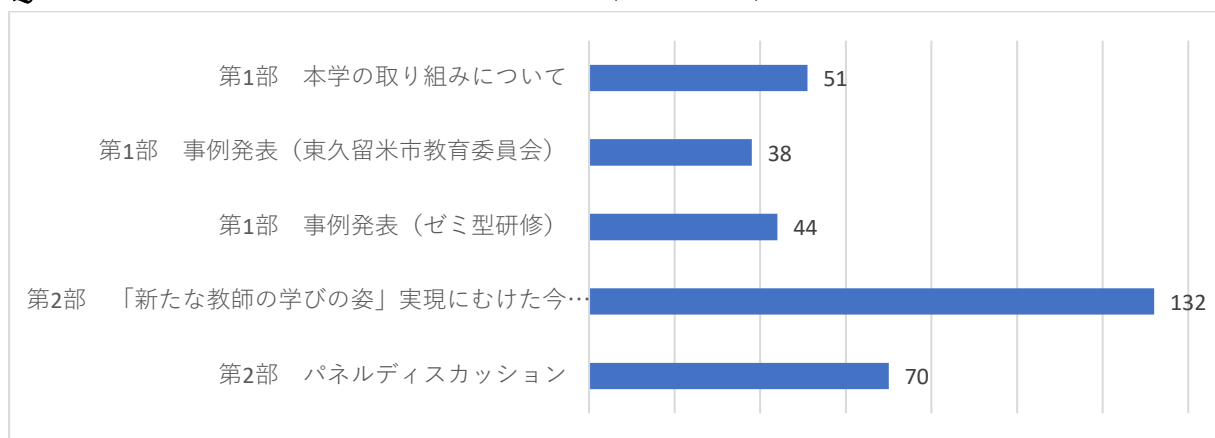


広報は、①チラシの郵送（166件）②メール（108件）③東京学芸大学公式Webサイト及び現職教員研修Webサイトへのお知らせ掲載の3点を実施した。チラシの郵送・メールともに一定の効果が得られた。

[対象]

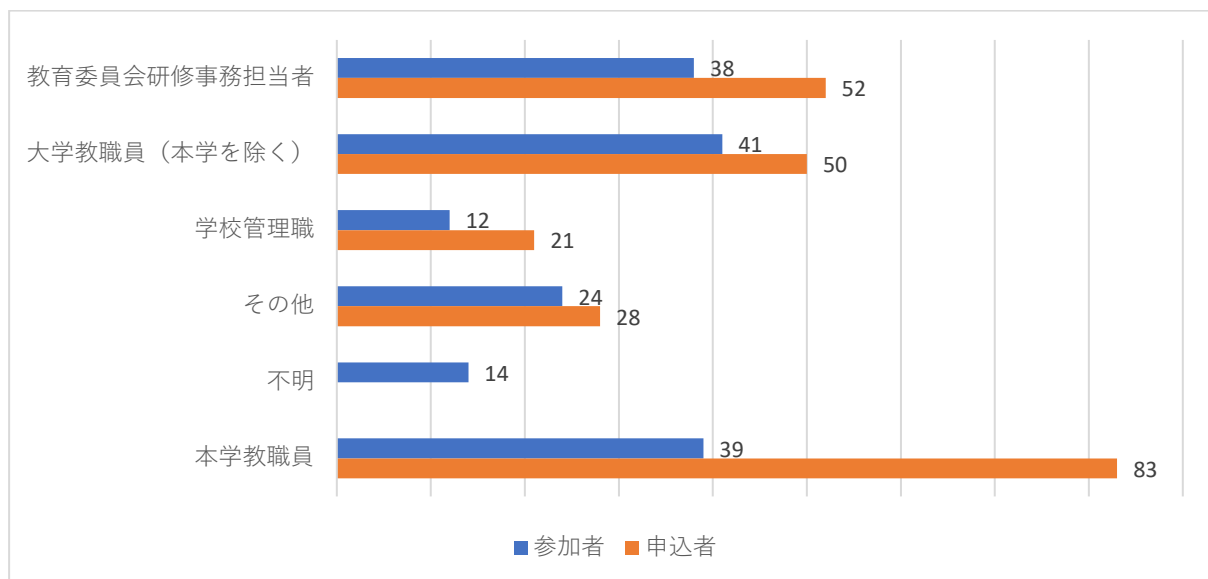
- ・都道府県・政令指定都市・中核市の教育センター
- ・東京都区市町村・関東管内都県・政令指定都市・中核市の教育委員会
- ・全国連合小学校長会・全日本中学校長会・全国高等学校長協会・全国特別支援学校長会
- ・日本教育大学協会

Q2. 特に関心のあるプログラムはどれですか。(複数回答可)



特に文部科学省からの発信に事前の関心が集まった。

2. 参加状況



- ・参加者は166名で、職種は複数選択可のためグラフ上の数値の合計とは一致しない。
- ・本学教職員には招待者を含む。

### 3. 事後アンケート

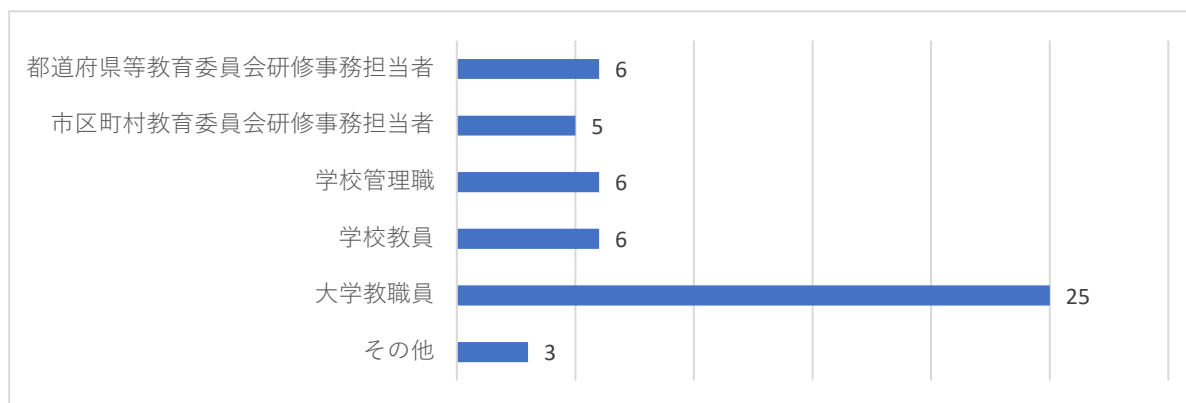
実施方法：オンライン

実施期間：令和4年9月28日（水）～10月2日（日）

回答数：51

回答率：31%

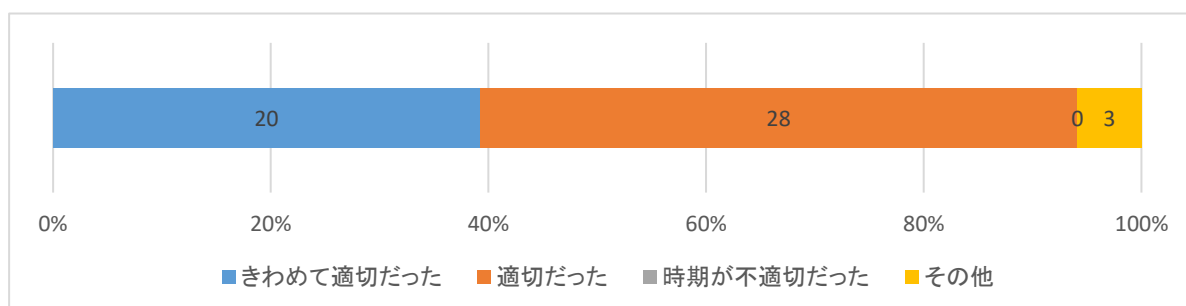
Q1.あなたの職種を教えてください。



Q2.所属機関のある都道府県名を教えてください。

東京都	24
千葉県,福岡県	各 3
宮城県,大阪府,兵庫県,岡山県,愛媛県	各 2
北海道,山形県,福島県,茨城県,栃木県,山梨県,長野県,静岡県,愛知県,京都府,高知県	各 1

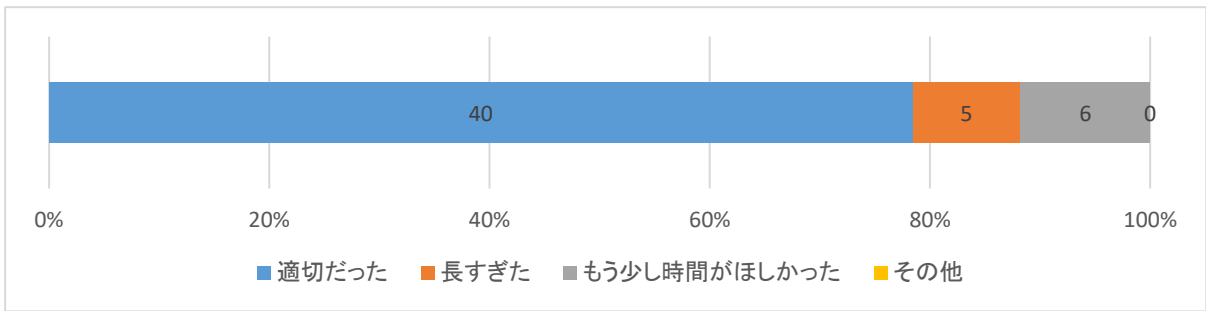
Q3.シンポジウムの設定した時期について



#### 【意見】

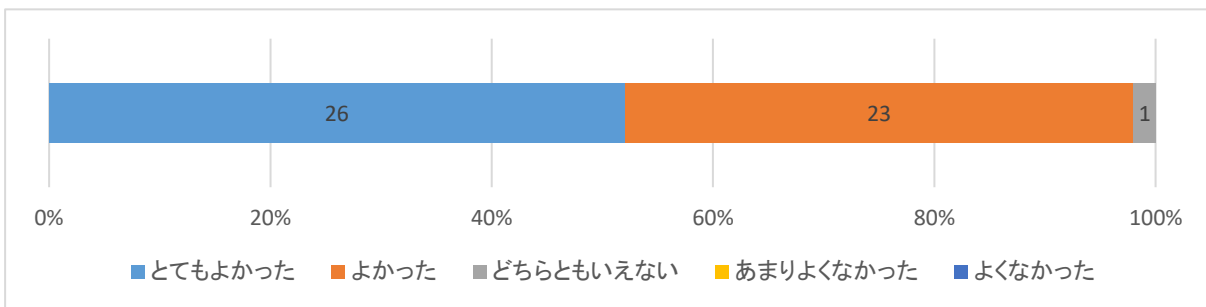
- ・参加しやすい土曜日が良かった。
- ・平日だったので、すべての時間の視聴ができなかったのが残念だった。
- ・夏季休業中だとありがたいです。

Q4.シンポジウムの時間設定について



本シンポジウムの各プログラムについて、どのような感想を持ちましたか。

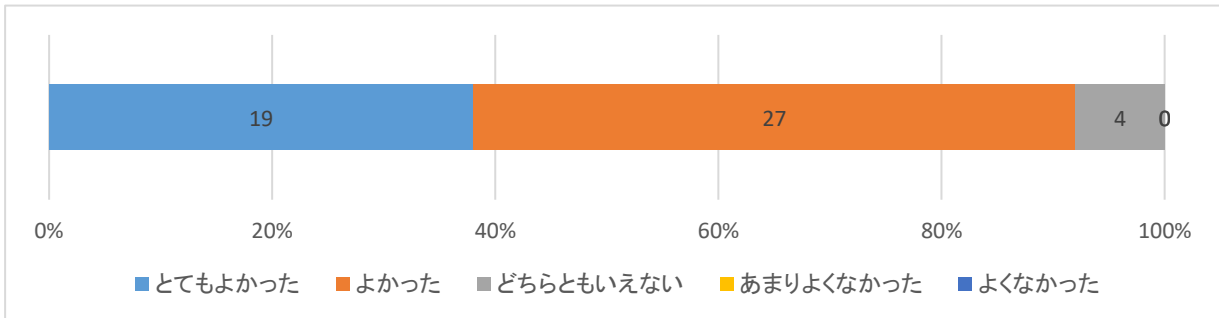
Q5.第1部 本学の取り組みについて



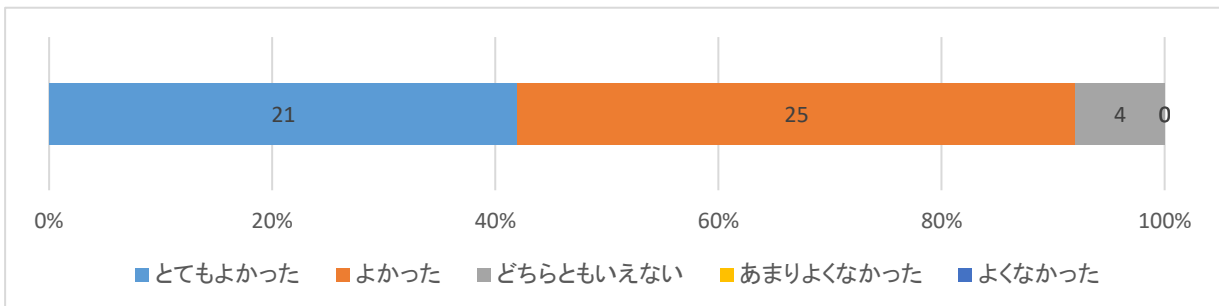
【意見】

- ・具体的な導入についてのイメージが沸かなかった。

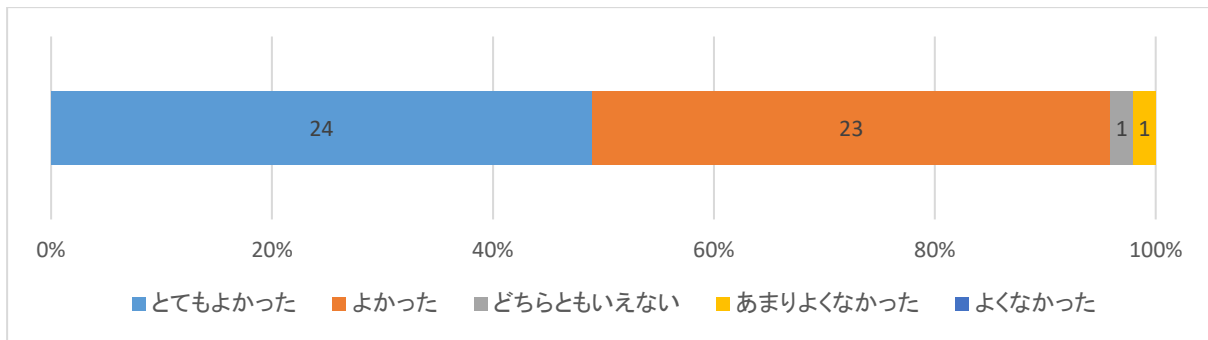
Q6.第1部 (事例発表) 現職教員研修推進本部と教育委員会との連携



Q7.第1部 (事例発表) 特別支援教育に関わる「若手・中堅二層制の専門的指導法向上ゼミ研修」



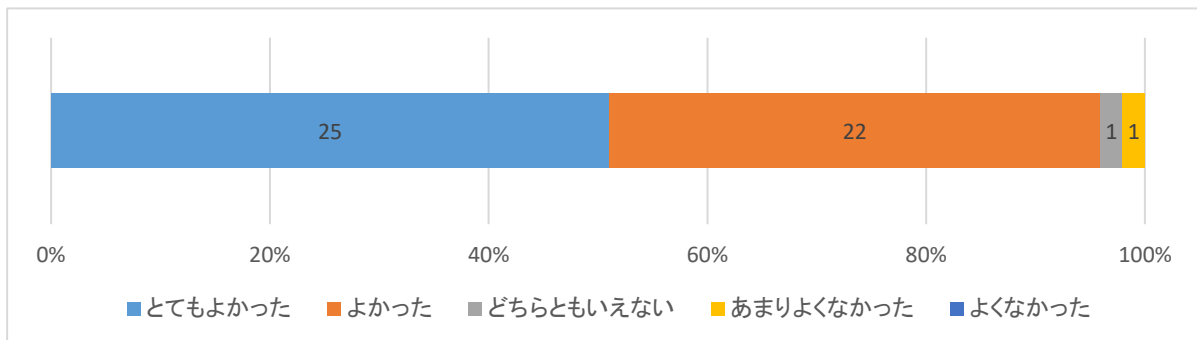
## Q8.第2部 「新たな教師の学びの姿」実現にむけた今後の研修のあり方について



### 【意見】

- ・文科省の方の資料はいつもパワポ資料の情報量が多くて、何が大事なところなのかが分かりにくいです。
- ・最新のことについて説明があり、良かった。

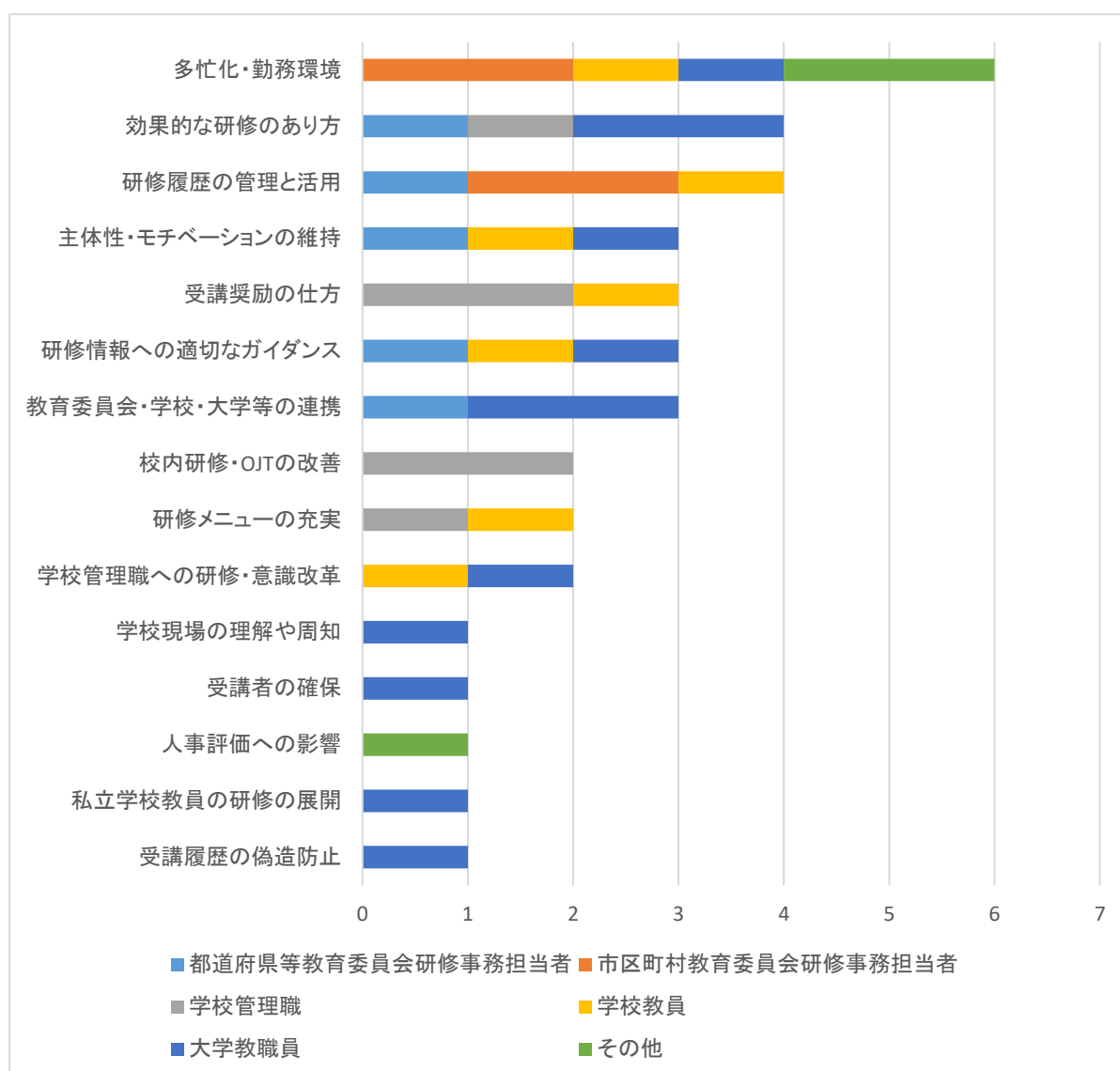
## Q9.第2部 パネルディスカッション



### 【意見】

- ・もっと時間が長ければ、パネリストがゆっくり話せたように感じます。また、もっと色々な話も聞けたのかもという思いがあります。

Q10.今後の現職教員研修について不安に思っている点や疑問に思う点があれば教えてください。



\*複数の観点が含まれる回答はそれぞれに計上する。

【抜粋】

○多忙化・勤務環境

- ・日常業務を圧迫して生徒と関わる時間が減少するのではないか
- ・研修効果ではなく簡便さでオンライン研修を選択してしまう
- ・研修を受講したいと思える余裕のある勤務環境が必要
- ・業務時間外で行った自主的な研修も評価されるべきだが、業務時間内で実施するとより教師の時間を制約する可能性もある

○主体性・モチベーションの維持

- ・主体的な参加意識を高めるため、教員自身の状況の自己認知能力を育成する必要がある
- ・「課題のない」「授業力・指導力がある」教員のモチベーションを維持すること

○受講奨励の仕方

- ・大人数の教員を抱える特別支援学校における個別対応
- ・強制されているように感じない奨励の仕方

○研修情報への適切なガイダンス

- ・多種多様な研修が必要である一方、情報が多すぎると選択が難しくなるため、マッチングシステムが必要
- ・県内の複数機関が研修を提供しており、情報の一元化をどうするかが課題

○校内研修・OJT の改善

- ・経験年数の偏りにより OJT がうまく機能していない

**Q11.東京学芸大学の現職教員研修で取り扱ってほしい研修のテーマがあれば教えてください。**

都道府県等教育委員会研修事務担当者	授業改善、令和の日本型学校教育、校長に求められる資質能力（ファシリテーション能力、アセスメント能力）、現職教員が自分の課題を見出す方法、ゼミ型研修
市区町村教育委員会研修事務担当者	喫緊の課題に対応した研修
学校管理職	特別支援教育（障害種ごと）の実践研修、国の動向、学習評価、特別支援教育の専門性向上、課題解決型、学生から現職へのつなぎ
学校教員	働き方改革、人材確保に関する近年の課題、特別支援教育学習指導要領の内容説明、キャリア教育、生徒指導提要、ファシリテーション、対話
大学教職員	インクルーシブ教育、学校管理職の研修（校内研修の充実・研修奨励）、困っている事例失敗事例、新しく導入された教科に関する研修（情報や理数探究など）、非常勤講師等対象、リカレント、校内研修の方法、テクノロジースキルとグリーンスキル
その他	教師が学ぶ意義について、生徒指導、ファシリテーション

**Q 12.シンポジウム全体について、ご意見があればお聞かせください。**

（一部抜粋）

○開催形式について

- ・オンラインもいいですが、やはり、対面で参加したい。
- ・せめてハイブリッド開催としていただけるとよかった。
- ・リモートでの発信を今後も期待する。
- ・定期的に情報共有をお願いしたい。
- ・何度も開催してほしい。

- ・小テーマを扱った小規模シンポを各所で開けるとよい。

#### ○プログラムについて

- ・パネルディスカッションで、教育センターの方と学校長の方という、現場に近い方の取り組みやご意見をおうかがいできたのは、大変勉強になりました。
- ・参加者の情報交換、交流等の時間があれば、他県の様子を知ることができたので、良かったのではないかと感じた。
- ・もう少しテーマを絞って、登壇者相互のやり取りの時間があってもよかった。
- ・各大学間での考え、取組の情報共有の場があってもよいように思います。
- ・教育委員会の方のお話も聞きたかったです。
- ・伊東先生のお考えを聞きたかったこと(特にマイキャリアノートの活用について)と、時間が足りなかった点が少し残念でした。
- ・時間の問題もあるが、議論の深まりがなかった。

### 概観

#### ○回答の傾向

- ・回答者は、大学教職員が約半数を占めた。地域では約半数が東京都だった。
- ・記述式の設問(Q10~12)の回答数に関しては、他の職種の回答率のほうが高かったため、職種による回答の偏りは小さくなっている。
- ・学校管理職に特別支援学校からの参加者が多かったため、回答にその影響がみられる。

#### ○シンポジウムについて

- ・設定した時期は、概ね肯定的な意見が多かった。
- ・時間設定については、例年より長めの時間であったが、パネルディスカッションに関してはQ9やQ12にも、もっと時間がほしかった旨の意見が見られた。
- ・各プログラムは「とてもよかった」「よかった」がいずれも9割以上と好評だった。
- ・多様な立場のパネリストの話が聞けたことがよかったという回答が目立った。

#### ○現職教員研修の課題について

- ・Q10の「不安に思っている点や疑問に思う点」については、教員の多忙感・勤務環境にかかわるものが最も多く、次いで効果的な研修のあり方、研修履歴の管理と活用に関するものが多かった。
- ・Q11の「取り扱ってほしい研修テーマ」について、校長に求められる資質能力(ファシリテーション能力・アセスメント能力)への要望が目立ったが、すべて学校管理職以外からのものだった。

以上